

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果報告について

1 調査の概要

- (1) 目的 本調査結果を児童・生徒への学習指導の改善・充実に役立てるため
- (2) 実施日 令和5年4月18日(火)
- (3) 対象 小学校6学年児童・中学校3学年生徒
- (4) 実施教科 小学校：国語、算数 中学校：国語、数学、英語(3年ごとの実施)
- (5) 調査内容 当該学年までに身に付けておかなければならない基礎的な知識及び技能と、それらを活用する力を一体的に問う構成

2 調査結果

【小学校】

	国語	算数
青 森 市	73	66
青 森 県	70	63
全 国 (公 立)	67.2	62.5

【中学校】

(平均正答率…%)

	国語	数学	英語
	70	50	44
	70	49	42
	69.8	51.0	45.6

3 本市児童・生徒の学力の状況

- (1) 小学校では全ての教科で、本市の正答率が県及び全国平均を上回っている。
- (2) 中学校では全ての教科で、本市の正答率が県平均以上となっているが、数学、英語の2教科においては全国平均を下回っている。
- (3) 学力の傾向
 - ①正答率が高い問題…基礎的な知識及び技能を問う問題
 - ②正答率が低い問題…基礎的な知識及び技能を問題解決のために活用する力を問う問題
- (4) 児童・生徒質問紙からみられる傾向

本調査の児童・生徒質問紙における授業に関わる、以下の質問項目に対して、肯定的に回答する児童・生徒の割合が、小学校では全国を大幅に上回っているのに対し、中学校では学校によってバラつきがあるものの、全体では下回る傾向にある。

 - ①課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか
 - ②話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか
 - ③分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか
 - ④各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っているか

※正答率が高い学校において、これらの項目を肯定的に回答する児童・生徒の割合が高い傾向が見られている。

4 今後の取組

- (1) 調査結果に基づき9年間を見据えた系統的な指導の在り方
- (2) 学習内容を解決するために必要な手立てを個別に行う「個別最適な学び」と他者の考えを生かして思考を深める「協働的な学び」を一体的に充実させた授業づくり
- (3) 1単位時間や単元、内容のまとまりごとなど、適切な場面で評価し、指導に生かすこと
- (4) 習熟の程度や学習履歴に基づいた補充・発展的な学習の充実

これらを、年間を通して見直し、改善を図る、いわゆるPDCAサイクルで授業を充実させるよう、校長会で示したところであり、研修講座や学校訪問等での具体的な指導・助言で教員の指導力を高め、児童・生徒の学力向上に努める。